



Hiroshima Research Center for Healthy Aging (HiHA)

主催: 広島大学健康長寿研究拠点、共催: 第3回Genes to Cells Seminar

HIROSHIMA UNIVERSITY

「骨粗鬆症や癌を予防するビタミンDの作用メカニズム」

榊 利之

富山県立大学工学部医薬品工学科
バイオ医薬品工学講座・教授

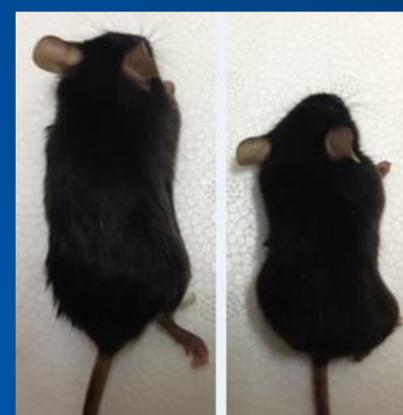
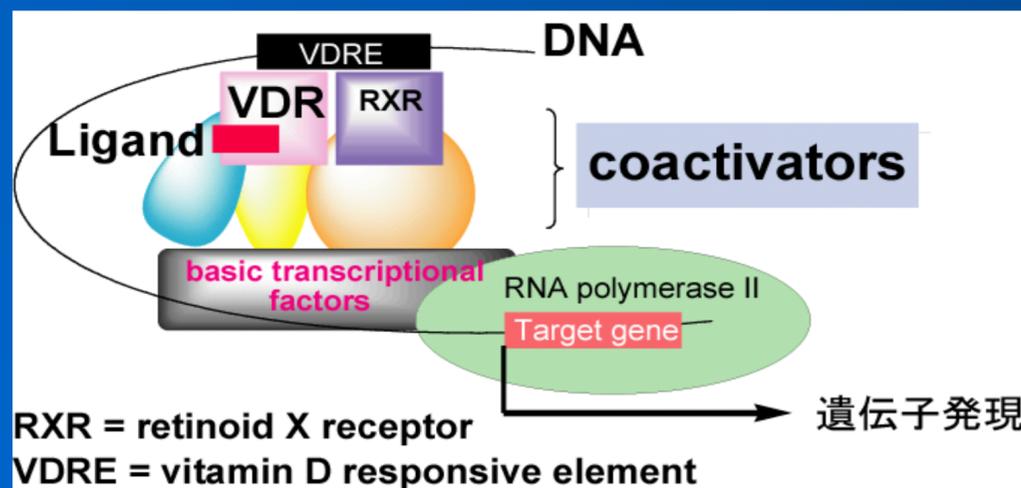
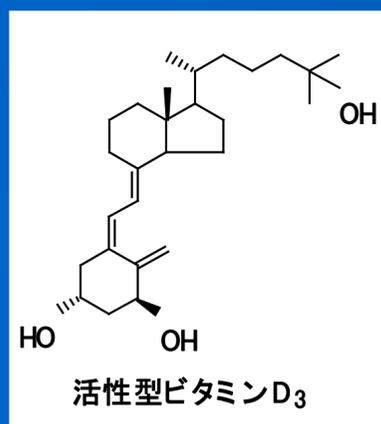
世話人: 登田 隆 特任教授
大学院先端物質科学研究科
分子生命機能科学専攻

本セミナーは5研究科共同セミナーです。

《概要》

ビタミンDは骨代謝や血中カルシウム濃度調節に重要な役割を果たしていますが、それだけでなく、細胞の増殖・分化、免疫など多くの生体機能に関わっています。最近、ビタミンDの摂取により、骨粗鬆症だけでなく癌を予防できることが明らかになってきました。また、これまでに多くのビタミンD誘導体が医薬品として開発されてきました。強い骨密度上昇作用をもつビタミンD誘導体が骨粗鬆症治療薬として使われており、癌治療への応用が期待されているビタミンD誘導体もいくつかあります。本セミナーでは遺伝子改変マウス・ラットを用いて演者が明らかにしたことを中心に、ビタミンDの作用メカニズムについて解説します。

CYP27B1ノックアウトマウス
(骨粗鬆症モデル動物)



WT KO

発育不全および骨密度の低下

開催日時: 平成 29 年 6 月 23 日(金) 15:00-16:00

会場: 広島大学先端科学総合研究棟 3F 302S会議室

お問い合わせ先

登田 隆: E-mail takashi-toda@hiroshima-u.ac.jp TEL 082-424-7868